

学 校 評 議 員 会 議 録

開催日時	令和 3 年 6 月 3 0 日 (水) 18時00分 ～ 19時05分	
会 場	北海道南幌高等学校 会議室	
出席者数	学校評議員 5 名	学校側 6 名
出席者名	青 木 義 春 川 上 裕 一 田 中 ミカエ 西 川 志津子 林 郁 雄	矢 橋 佳 之(校 長) 中 條 尚 志(教 頭) 宮 本 理 絵(事務長) 上 津 隆 路(教務部長) 大 澤 信 哉(生徒指導部長) 川 上 美知代(進路指導部長)
校長が意見を求めた事項		学 校 評 議 員 の 意 見 等
学校概況及び課題解決に向けた取組について		1 学校概況、学校運営について (1) シラバス内容も含め、資料面においても各部門クオリティの向上を感じる。生徒数減による小回りが効く利点を生かすとともに、時代の変化、コロナ禍という社会的逆風を、だからこそ今、という良い意味での開き直り感、力に変えている。苦慮もあると思うが頑張ってもらいたい。今後とも協力していきたい。 (2) 閉校とはなるが、最後の生徒達が本校で学んでよかったと思えるよう携わり送り出してほしい。 2 生徒指導（自己肯定感の育成）について (1) 子ども達のまじめで大人しい要素は、「相談しない」「顔に出さない」等、怖い側面もある。そう言った部分も汲み、子ども達の話を持ちあげてほしい。社会へのプレッシャーに対応する力、何のために学び、働くのか、一人一人が目標意識を持てるよう導いてほしい。 (2) 褒められることが少ないと自分の存在が小さくなっていく。無関心が一番怖く、誰しも認められたい、見てほしい思いがある。家族、先生含め、積極的に褒めてあげてほしい。 「南幌学」を通じ、日常の授業等とは異なった局面から褒めることができたことは、生徒自身及び生徒間での気づきや自信、自己肯定感の育成に繋がっている。
上記のとおり会議を開催した。		令和 3 年 6 月 3 0 日 北海道南幌高等学校長 矢 橋 佳 之

※ 別の書式により意見聴取の内容を整理している場合は、それを添付し保管すること。

※ 配付資料等を添付し保管すること。